

## 日本と韓国

ライター：谷藤莉里子、佐藤山葉 エディター：大友有人

大学へと向かう電車で揺られていると、スマートフォンが振動する。日本人の友人からの LINE だ。「ちゃんと起きてる？」寝坊ばかりする自分に、教授が出席をとる授業の前に、日本人の友達が必ず連絡してくれる。ハングル文字の入力から日本語入力へとスマートフォンを切り替え、「もう目黒にいる」と返信すれば、ただちに「すごい！留年回避だね」と冗談交じりに返ってくる。これは韓国人留学生ゴン・ドヨンの日常の会話である。

ゴンドヨン (20) とチュ・ヨンジュン(22)。彼らは韓国からの留学生として慶應義塾大学文学部に在学する2年生。二人ともサークルや授業を中心に日本人との交流関係を持つ。同じ専攻の友人と一緒にテスト勉強に励み、そのまま帰路を共にするといった当たり前に見えるキャンパスライフ。しかし、そういった日常にも時折、日韓関係が影を落とすことがあるという。

「仲の良かった友達がすごく韓国が嫌いと分かったときはショックだったし、怖いと思った」とチュ・ヨンジュンは言う。韓国人というだけで、「反日なんでしょう」と決めつけられたこともあったという。こうした反日または反韓感情と家庭環境は関りがあるのではないかとヨンジュンは言う。ヨンジュンは両親の仕事の同業者が日本人であり、日本人と関わる機会があったこともあり日本には悪いイメージを持っていなかった。また、ドヨンの場合、母親は反日な面も持っていたが、ニュートラルな考えを父親が持っていたため、日本へ悪いイメージを持たずに日本留学を考えたと言う。

隣国という関係もあり、両国の間には歴史問題が色濃く影を落とす。政治面での衝突は頻繁に見受けられ、旭日旗を燃やす韓国でのデモ、日本各地で見かける韓国人へのヘイトスピーチなど両国の関係悪化を煽るような出来事が後を絶たない。2014年に行われた、言論NPOと東アジア研究院による日韓共同世論調査で、「日韓両国民の相手国に対する印象」の項目では、韓国に対する印象を「悪い」「どちらかといえば悪い」と回答した日本人は54.4%と半数を超え、また日本に対する印象を「悪い」「どちらかといえば悪い」と回答した韓国人は70.9%に達した。

ヨンジュンは一度、動画投稿サイト YouTube である実験をしてみたという。韓国語で「日本」と打って検索したとき、ヒットした動画は日本の料理や日本の文化を紹介するものであった。一方、日本語で「韓国」と打って検索すると、1件目から明らかに韓国を否定したヘイトスピーチの動画のシリーズがずらりと並ぶ。

「日本人と韓国人は政治問題の捉え方が違うと思う。韓国人は、日本の政治が嫌いでも、日本も日本という国も嫌いではない」とヨンジュン。日本人であれば韓国人と、韓国人であれば日本人に、実際関わってみることで変わった発見があるのではないだろうか。日本で二年間の留学生活を経験した彼は言った。

編集後記

編集後記

友人であるゴン・ドヨンとチュ・ヨンジュンが兵役に行く前に、自分が興味を持つ日韓関係について共に考える機会を持てたので、この記事を書けたことはとても有意義でした。日韓関係に興味を持たせてくれた二人にとっても感謝するとともに、彼らにまた会えることを楽しみにしています。(佐藤 山葉)

隣国であり文化も共有している韓国と日本には歴史問題が存在します。私は韓国語と韓国文化を学ぶ者として日韓関係の現状やそれぞれの国民の考え方を知ることに関心がありました。今回の取材では、日本へ留学中の韓国人学生の体験した”反韓“や、日本人と韓国人の政治の考え方の違いを知り、改めて考えることができました。日本人として韓国と関わる上で、日韓関係というものは切り離すことのできない問題だと思います。これからもこの問題について勉強していきたいと思います。(谷藤 莉里子)